

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ^⑮ ～仲間への感謝が溢れる語り合い～

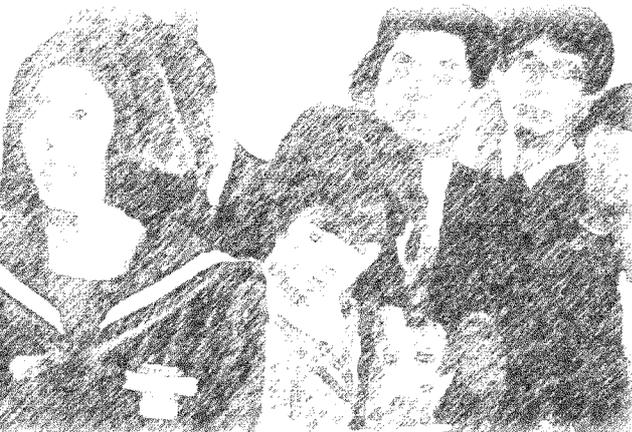
1991年度徳島県中学校同和教育研究大会での板野中学校3年B組公開授業、後半の語り合いは、仲間への感謝が溢れていく。信頼と尊敬の絆の中で、生徒が生徒を変える語り合いは、生徒一人ひとりの人生を限りなく豊かなものにしていく。

S・Fの語り「みんなの発表を聞いて心の底から語りたいと思うようになりました」

私はこのクラスになってから、中1のときにいじめられた子に今も変な目で見られているということをよく話したんだけど、それってすごい私の誤解だったんです。この前その子と自転車置き場で会ったんだけど、その子が話し掛けてきてくれて、なんかその子がすごく変わったなあという感じがして、すごくうれしくて、何か私もその子のことすごく悪い目で見ていたけど、それって私がすごい誤解をしていたんだと思ったんです。

ある意味で私とその子を避けて、反対に仲間外れにしているような感じだったけど、その子が話し掛けてくれたときに、この子はこんなに変わっているのに、私の勘違いでこの子を逆に苦しめていたんじゃないかなって、すごく自分の狭い心が情けなくなって自分の思ってきたことを反省したんです。そして、ほんとには公開授業とかがすごくいやだになって、公開授業のときも何も考えずにぼんやりしていることがあったんです。

でも3年生になって森口先生のクラスになったときに、Y・IさんやS・NさんやM・M君とかいろいろな人がすごい発表して授業中胸がいっぱいになってきて、心から私も頑張らないかんと思うようになってきたんです。ほんとにY・IさんやS・Nさんやクラスみんながいてくれて私もこんな考えがもてたんだなあ、すごくみんなにお礼が言いたいです。



Y・Nの語り「みんなの語りを自分なりに受け止めることができるようになりました」

2年生から取り組んできた全体学習を始めとする同和問題の学習は、私に勇気を与えてくれました。その中でいろんな友だちが自分をさらけ出して語ってくれているのに、私は下を向いたままずっと黙っていました。それが今では発表することはまだまだ難しいけど、語ってくれる友だちの言葉を自分なりに一生懸命に受け止めることができました。それが私にとって一番うれしいです。

S・Eの語り「挫けそうになったらまた会って自分のことを言い合えて支え合っていける」

この学習をしてきて私のはっきりと思ったことは、人を変えていくのは周りであって、自分が変わるのも周りの影響があって変わっていくんだと思いました。この学習のおかげで私たちは何かすごい絆というか、切っても切れない結び付きができたと思うし、このメンバーだったら高校へ行って離ればなれになっても、挫けそうになったらまた会って自分のことを言い合えて支え合っていけるという自信があります。



K・Mの語り「この学習に取り組んでなかったら、差別意識があって差別していたと思う」

私はこの学習に取り組んでなかったら、差別意識があってずっと差別していたと思います。それでこの教育に取り組んできて少しずつだけ差別意識がなくなってきたと思うから、この学習に取り組んできてよかったと思います。これからもこの学習に取り組んでいきたいです。



S・Nの語り「全道研で語れなかった仲間が語ってくれたことがうれしい」

道徳教育の全国大会のときに、私の友だちが一人手を挙げられなかったと言って、すごい気にしとったんだけど、それでみんなのこと裏切ったことになるか言うて、すごい気にしとったんだけど、それで「今度頑張ったらええで」と言うたら「今度頑張る」というふうに言いよって、それで今発表してくれてすごくうれしいです。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおランチ共同代表 森口 健司